

平成 28 年 11 月 2 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
 代表者名 代表取締役会長兼社長 志 太 勤 一
 (JASDAQ コード番号 4837)
 問合せ先 常務取締役 管理本部長 兼 IR 担当
 若 狭 正 幸
 (TEL. 03-5784-8909)

営業外費用の計上及び平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想との差異
 並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において営業外費用を計上するとともに、平成 28 年 5 月 20 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、通期の業績予想につきましても修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用の計上

平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、持分法適用関連会社における不採算店舗の撤退による損失の計上に伴い、持分法による投資損失 2,242 百万円を営業外費用に計上いたします。

2. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想値の修正

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	75,200	1,000	200	△350	△8.98
実績値 (B)	75,110	△821	△3,406	△3,459	△88.76
増減額 (B-A)	△89	△1,821	△3,606	△3,109	
増減率 (%)	△0.1	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	80,234	△1,001	△1,217	△1,402	△35.97

3. 平成 29 年 3 月期通期連結累計期間業績予想値の修正

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	152,000	3,300	2,100	100	2.57
今回修正予想 (B)	151,000	1,600	△1,200	△3,300	△84.66
増減額 (B-A)	△1,000	△1,700	△3,300	△3,400	
増減率 (%)	△0.7	△51.5	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	159,707	△771	△1,089	△7,120	△182.66

4. 修正の理由

(1) 平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想値の修正

売上高につきましては、円高や株価低迷による景況感の下押しにより個人消費の回復は依然として鈍い中で、レストランカラオケ事業においては、特に同業他社との低価格競争激化に加え猛暑や台風等による天候不順、オリンピック開催等の影響もあり、当初計画を下回る見込みとなりましたが、その他の事業セグメントにおいては、「トータルアウトソーシングサービス」による事業拡大と効率的な出退店施策により堅調に推移し、全体としては概ね計画通りの見込みとなりました。

営業利益につきましては、当社グループ全体の最優先重要課題である赤字店舗の改善に向け、業績の回復が見込めない不採算店舗の早期撤退と早期黒字化に向けたコスト管理の徹底に注力してまいりました。セグメント別では特にレストランカラオケ事業において前年同期比 6.7 億円超の営業利益改善、また新規事業のスポーツ、エステ関連事業におきましては前年同期比で 3 億円の営業利益改善を果たしました。しかしながら、原材料の高騰や慢性的な人手不足等による人件費、物流コスト高騰の影響などにより、グループ全体のコストが増加し、相対的に利益率の高いレストランカラオケ事業が前年同期比での営業利益改善を果たしたものの、当初営業利益計画には及ばず、全体としての当初営業利益計画を下回る見込みとなりました。

経常利益及び四半期純利益につきましては、上記の営業外費用の計上の通り、主に持分法適用関連会社において、事業の選択と集中により不採算店舗の撤退による収益構造を 2 年で再構築するという中期経営計画方針を 1 年半前倒しで実行し、平成 29 年 3 月期第 2 四半期で完了させたことにより、当初経常利益及び四半期純利益計画を大きく下回る見込みとなりましたが、赤字店の処理による将来的な収益構造の再構築につきましてスピードを持って実行いたしました。

(2) 平成 29 年 3 月期通期連結累計期間業績予想値の修正

売上高につきましては、直近でのレストランカラオケ事業における売上動向は回復の兆しが見え始めており、フードサービス事業（コントラクト・メディカル）、トータルアウトソーシング事業においても引き続き堅調に推移することが予想されますが、年末にかけての米国の利上げや大統領選挙などを巡って金融市場が再び混乱するリスクもあり、不透明な金融市場の動向により軟調な個人消費動向が続くものと予想されることから、当初計画から若干の減少を見込んでおります。

利益面につきましては、当社グループのスケールメリットを活用し、原材料・物流コスト高騰の抑制と労務費の原価管理の徹底によるローコストオペレーション体制をより一層推進するとともに、レストランカラオケ事業においては、下期より特別改革事業本部を設置し、法人外交及びサービスレベルの強化と店舗別コスト管理をより一層強化・徹底することで収益性の改善に努めてまいります。

また、各事業セグメントにおける不採算店舗の早期撤退及び固定費コストの更なる抑制による収益改善効果、加えて経営意思決定の早期化と管理事務処理の効率化等を目的とした渋谷本社機能の統合による管理コストの圧縮及び各子会社の家賃コスト圧縮、加えて第三者宛の渋谷シダックスビレッジ賃貸契約締結等の収益改善が見込まれます。また、平成 29 年 3 月期下期につきましては、前年度に計上したレストランカラオケ事業に係る減損損失と税効果取崩し及びトータルアウトソーシング事業での厚生年金基金解散損失引当金等の損失合計 5.7 億円は見込まれず、当初計画の達成を見込んでいることから、通期営業利益を 1.6 億円、通期経常利益を△1.2 億円、通期当期純利益を△3.3 億円に修正いたします。

※ 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

以 上